

令和2年度第1回香美市まちづくり委員会会議録【概要版】

1 概要

日 時 令和2年9月30日（水）午後6時30分～午後8時30分

場 所 香美市役所3階会議室

出席者 まちづくり委員 19名、事務局（企画財政課） 3名

欠席者 5名

2 開会のあいさつ（会長）

3 議題

○委員からの意見等 ●事務局の説明等

（1）本市における協働のまちづくりの必要性と現状について

- これから協働推進計画を策定するにあたり、前提となる認識の共有のため、「本市においてなぜ協働のまちづくりが必要とされるのか」、「地方自治の置かれている現状と向かうべき方向」といった点に関して整理した資料1-1「本市における協働のまちづくりの必要性と現状について」について、事務局より説明する。
- 本市における協働事業の現状に関して、資料1-2「令和元年度香美市の協働事業一覧」を事務局より説明する。
- 本市における市民参画の方法等を規定した制度の運用状況に関して、資料1-3「市民参画の方法等を規定した制度の運用状況一覧」を事務局より説明する。

<行政評価制度について>

○資料1-3における行政評価制度について、運用回数は平成29年度から令和元年度で0回である。市民が行政を評価するのはなかなか難しいが、一度も運用していないことに関して理由はあるのか。

●行政評価制度については、比較的新しい考え方に基づく制度のため、協働のまちづくり条例が施行された令和元年度から検討を始めた段階である。評価していただくためには、何らかの枠組みが当然必要であり、先例などを踏まえて順次整理し、行政評価制度に繋げていきたいと考えている。

<人口減少問題について>

○まちづくりを行う上で、行政、議会、市民が今まで以上に一つになって、人口減少問題に真剣に取り組む必要があると感じており、施策をどんどん進めていきたい。

(2) 香美市協働推進計画の概要と策定スケジュール（案）について

- 市がこれから策定を進めていく協働推進計画の概要と策定体制、スケジュールに関して、資料2「香美市協働推進計画の概要と策定スケジュール（案）」を事務局より説明する。

<計画の策定体制およびスケジュールについて>

○2ページの図における①から④までのサイクルを、6カ月で4回実施するのはスケジュール的にきついのではないかと。

- ①から④までのサイクルを続けていきたいとは考えているが、新型コロナウイルスの影響や計画策定の進捗状況によっては、このペースで進めないことも考えられる。一応の目安としてスケジュールを定めている。

<一般市民からの意見の吸い上げについて>

○一般の市民のこういうことをやってもらいたいとか、協働でやっていただきたいとかいう意見はどこから吸い上げるのか。

- 5ページの計画策定スケジュールに示させてもらっているが、あるタイミングでパブリックコメントを行って一般の市民からの意見を頂戴したいと考えている。素案のようなものを示してこれでどうですか、というやり方の他に、自由意見のようなものを加えていただいて、アンケート形式のようなものを交えて、一般の方からのご意見をいただくことは可能と考えている。また、実際の協働領域において市民の意見を取り上げて具体化していくということは、この協働推進計画の中でも具体的に言われてくるものだと考えている。市民の意見というのは、計画自体にも先ほどのルートを通じて入れ込んでいくけれども、実際はそうした実践段階において市民との協働を進めていく中で、事業化の案についても直接市民から頂戴したいと考えている。

(3) 香美市協働推進本部の設置について

- 香美市協働推進本部の目的等に関して、資料3-1「香美市協働のまちづくり条例施行規則」、資料3-2「香美市協働推進本部設置要綱」を事務局より説明する。

(4) 香美市協働推進計画骨子案について

- 香美市協働推進計画の骨子案に関して、資料4「香美市協働推進計画骨子案」を事務局より説明する。

<香美市協働推進本部からの意見について>

- 庁内で立ち上げた協働推進本部会において、この骨子案に対していくつか意見が出ている。細かいものは事務局側で修正できるものであるが、例えば第3章にある「参画・協働の基本姿勢」というところに、参画と協働を分けて記載しているけれども、「これはあくまで協働である」という意見があった。当然、参画も協働の一形態と見なすこともでき、章立てから分けて考えるのではなく

て、協働ということを念頭にやっていったらどうかという意見が出ている。また、9章の「計画の検証・評価」について、この計画そのもので管理して行くのではなく、各事業分野のそれぞれの計画において管理をしてはどうか、という意見が出ている。いずれにしても、まだ章立ての段階であるので、内容が豊かになった段階で調整させていただきたい。

<計画策定作業の進め方について>

○委員長としての認識をお話ししたい。例えば一章、二章、三章ということについて、順次皆さんにこういう案ではどうでしょうか、ということをお示しながら煮詰めていくという形を考えている。それで行き着くところまで行って、次のまちづくり委員会にバトンタッチをしていくという形での推進になっていくと思う。

<計画の期間について>

○計画の概要の4番目「計画の期間」について、この計画は令和8年3月までで、4月以降はまた別途に作成するということか。

●市のトップの計画が振興計画であるため、計画年度としては上位計画の終了年度とし、令和8年3月までには次の計画の準備をするという考えである。協働を今後も続けていくということに変わりはないけれども、一応、計画は通常、年度を区切って管理をして、計画の進捗を管理していく。それから、どうしても時代の流れとともに内容が古くなったりするものもあり、そのために一応目途となる年度を区切って見直しを行うということを行政では実施している。あくまで協働推進計画自体は行政の計画なので、そうした通例に則り設定している。

<協働推進計画と他の計画との関係性について>

○香美市都市計画マスタープランと香美市協働推進計画の関係性は。

●都市計画マスタープランは建設課において、協働の一形態として市民の知恵をいただきながら策定しているところである。協働推進計画は市民と行政との協働に関わる全般的な事項を盛り込んだ計画である。香美市の将来目標は一つであり、「美しく豊かな自然に生まれ、共に支えあう 進化する自然共生文化都市」の実現するということは、都市計画マスタープランでも同様である。

○縦割り行政の悪いところで、別個にやっているとかそういうことは無くて、ちゃんと横の連絡は密にやって矛盾点が無いように相互に突き合わせながらやっているという解釈でいいのか。

●資料2の3ページをご覧ください。「香美市協働推進計画の位置づけ」に、計画のたてりを記載している。一番トップに来るのは第2次香美市振興計画、その下に協働推進計画を要請しているまちづくり条例、その下にこの協働推進計画となる。この協働推進計画は行政と市民との協働領域に関する全般的な部分を規定して、その下に具体的な計画や事業がぶら下がるというたてりになっている。そういうイメージで捉えていただいたらいいのではないかと考え

ている。

(5) その他

<香美市まちづくり委員会の資料に対する委員からの意見について>

●令和2年3月4日付けで照会した香美市まちづくり委員会資料への意見照会について、本会の議題に係るもの以外に関するご意見に対して事務局より回答させていただく。二点あり、まず一点目の地域活性化総合補助金の補助金の在り方について、いただいたご意見の中で「地域活性化総合補助金では、物品購入等は香美市業者に限るとあるが、通販等が発達した現状にはそぐわない。」というご意見をいただいていた。こちらのご意見に対して、市内業者からの物品購入等を通じた地域経済への波及を図るため、発注は市内業者に限ることとさせていただいている。また、市内業者では施工できない場合、取り扱いがない場合又は施工が専門的及び特殊であるため、市内業者では施工困難であると市長が特に認める場合には、市外業者への発注も認めているところである。

○私が出した意見である。町内会長をやって嫌な思いをした。自分の金で買いなさいと基本的に言われた。75パーセントの補助金くれてみりゃありがたいと思えという口調であり、そういうやり方をした。だからおかしい。何も我々の方には責任は無い。予算を立てた時、物を買いたいと提案した時に知らない。当然安い方で予算を立てる。担当者はそういう発想でしかない。確かに地域活性化なので香美市の活性化が入っているからというのは、後で分かったこと。そこでまた疑問に思ったのは、例えばホームセンター。香美市が本社ではない。支店である。税金の関係も入ってくるでしょうけど、香美市の業者かと言いたくなる。それは支店があるからそうなんだとか、変な屁理屈を言う。それは市民サイドの考え方ではないと、それはちょっと私の苦情である。

●次にいただいていたご意見で、二点目に行政連絡会についてである。「自治会からの要望に対する言い訳会の感があり、協働で考える場の感がしない。」というご意見をいただいている。このご意見について、担当課である定住推進課に確認したところ、「行政連絡会は自治会数が多く時間が限られているため、現行の運営方法となっている。」ということであった。

○これも私が出した意見である。これも町内会長として参加して、やり取りを聞いてると酷いと思ったのが、去年、ある地区のゴミの収集時間帯を変えてくださいと、年寄で時間が早いからもうちょっと遅らすとか。もう初めから駄目だと、決めてるんだから駄目だという発想で、意見交換ではない。他の自治会からも何人かの方が、その場でクレームを言った。それと前にも家具の有料収集のことを事前質問で書いた。その時は、違う答えをされた。よそからゴミを捨てに来るからやめたんだ、とかいう感じで。私は他所の自治体はお金を出してチケットを買えば、家の前に出しておけば、家具のリサイクルにもなるし経済の効果もあるというような意見を出した。そしたら返って来ない。大きな自

治体の例をインターネットで調べて行ったら、香美市はそんな大きな所の真似はできないと言われた。初めからノーという返事である。これも意見交換にならない。行政連絡会では前向きに考えてみますという意見は無い。私のたった二年間の感じであるが、そういうことを改善していかないと協働の場は作れないというのが私の意見である。

- とても貴重な意見だと思う。自治会をどういう風にやっていくかというのは、これから大きなテーマになると思うし、地域分権ということも考えていかなければならないし、それもこの会の大きなテーマになると思う。

<会議の進行について>

- 議題の進行のことにに関して、女性の委員さんもおられるし、いろんな人たちの建設的な素晴らしい意見も沢山聞きたいと思う。その意見を他の会でも活用させていただきたいと思うので、ぜひ多くの人たちの発言できる様な雰囲気づくりをしていただいて会の推進をお願いしたい。

<光ファイバーの延伸について>

- 自分が物部にいて思ったのが、コロナの影響があつてネット回線を通じてもっと意見交換できるような、例えば、どうしても来れない時にできるように。香美市は光回線の導入体制は検討中ということを6月の新聞記事で見た。物部は大栃まで来ているが、もうちょっと奥まで来てくれたらすごい助かる。これからコロナの影響で変わってきているので、さっきのネットを使ってとか、移住してきてネットが使えんなら考える人もいると思うし、そんなことも入れていけたら良いと思う。

- 光ファイバーの延伸については、事業化が決定しており、物部もできたら別府まで伸ばしたいということで進めている。そのように業者とも打ち合わせをしているので、ご期待いただければと思う。今、業者が定まったばかりで、今後その業者と詳細な打ち合わせ通じてエリアが定まってくるものと思われる。受益世帯数とか様々なものを勘案して、できるだけ香美市の全域に行き届くような交渉をしているところである。また、定まったら定住推進課からアナウンスがあると思う。今年度に着手をして、来年度に光ファイバーを伸ばしていくという計画になっている。

<ゴミ出しについて>

- 他の委員からゴミ収集の時間帯の話があつたが、高知市とゴミ出しの感じが違ったりとか、全部の地域にボックスがあるわけじゃないのでカラスの影響とかもある。時間帯変更も、仕事に出る人の時間帯もあつたりして毎週、毎日あるわけではないので、そのへんはボックスを準備するとか、時間帯は厳しいかもしれないが、もっと違う方法を考えていったら良いかなと思った。

- 塵の問題、温暖化対策、共通性があるのでその時にまた来ていただいたらと。それと、都市計画マスタープランの会も終わったが、まちづくりにも関連すると思うので、よく内容を見ていただいて利用できることがあつたらやっていた

だいたらと思う。

<協働について>

- 協働というのはやっぱりこれからの香美市の発展のために必要なことだと思っているが、なかなか分かりづらいところもあると思うので、そのへんを今後、皆さんと理解できるようにしていけたらと考えている。

<議論の進め方について>

- 他の委員が提案された議論の進め方について、私も賛成である。
- 大体は分かったが分からないところもまだかなりある。骨子案について、全体をやるとなると時間も無いし、先ほど話が出たが、やはり一章、二章、何章か適当に分けて短い間隔でやった方が議論が深まりはしないかと思っている。

<行政職員の異動のサイクルについて>

- 協働ということなので、官と民が力を合わせてまちづくりをしていくということなのだが、官の方は異動がある。今、異動のサイクルが非常に速い。二年くらいで変わっている。大体一年で周りのことが分かって、二年目でいろんなことを考える。三年目でやっと一人前で一つの事業とかそういうものが分かるというのが実態じゃないかと思う。今、非常にサイクルが速くなっているので、専門の人がいなくなってきた。ある意味では非常に市民サービスを低下させている現状があると思う。もちろん異動が無いことによって、一人の人が何年も同じ部署にいることによって弊害も当然あるが、むしろそれが今は、速過ぎて逆に逆になっているような気がする。それが今まで仕事の中で、行政と仕事をしてきて凄く感じる場所である。そこをもうちょっと考えた方が良くないかと思う。そうしないとその計画も人が替れば変わってくる。担当が替れば、俺は俺のやり方でやるという状況も結構生まれてくる。そこは改善していかないと、順調に推進していけるかどうかというのは非常に疑問に思う。

<会のあり方について>

- この会が計画を立てる会だけではなく、いかに推進をしていけるかの会になればいいと思う。

<新型コロナの影響について>

- 私は商工業の方から考えると、現状この新型コロナに対するいろんなことが、生活様式を含めて商工業に関しても変わってくる。そうすると皆さんへのサービスとかも当然変わるわけで、生活様式が変わることによって今まであったものに一つ足さなければいけないとかいうところが増えてこようかと思う。その部分がこの会でまた反映されて一つ加味されたり、これを契機に、コロナという憎らしいものをプラス材料に考えられるような、そういうものを盛り込まれる部分があったらという風には思う。

<会議の感想など>

- やっぱり凄く難しいなという印象と、他の委員が言われたように、できないと

いうことではなくて、対話をしながら一つ解決ができていくようになればいいかなと感じた。

○今日いただいたまちづくりの現状とか、諸々の資料を考えると、この「将来都市像である美しく豊かな自然に生まれ、共に支えあう 進化する自然共生文化都市の実現に資する」というのは、私は素晴らしいと思うが、かなり乖離しているなと思って、かなりの努力が必要だと思ったが、委員の皆さんのご尽力でぜひ実現に向けて力になればと思った。

○今日、この会に臨む前に事務局と会長と二回ほど、私も打ち合わせをしているが、やっぱり分からないとか、何を話し合えばいいのかとか、自分の立ち位置とか方向性を見失ってしまうことがあって、もっと基本に立ち返らないとな、ということで今日、最初に資料1-1で協働の必要性とか現状について説明があったと思うが、今何で協働が必要なのかという理解を自分の中で噛み砕いて理解ができた時に、段々話し合いすべきこととか、こういうことをしていっていいのかなとか、与えられた資料の問題点なんかがだんだん目に付きだして理解が深まった。なんとかそうやって食らい付いてとか理解しようと努力しながら、今日を迎えた。先ほど、他の委員からクレームとか、話にならないというようなセリフがあったが、私も仕事ではなくてプライベートな面で、ちょっとしたこと些細なことでも行政の方々とやりとりする中で、そんなやり取りで協働できるのかなというような、そういう視点で物事を考えるようになった。我々、民間にいる市民じゃないとそういう問題点が見えてないとか、見えない、指摘できないというところも多々あると思うので、皆さんの経験を活かして協働を推進していけるような活動にできたらいいかなという風に考えている。

4 閉会